

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>○シチズンシップ教育と連携した新科目「公共」の研究を推進し、主体的に学ぶ意欲が向上する教育課程編成を実践する。</p> <p>○シチズンシップ教育を通し生徒が自ら課題を発見し解決する力を育み、社会に参加・貢献する能力と態度を育成する。</p>	<p>○シチズンシップ教育を理念としたアクティブ・ラーニングの推進を図り、新科目「公共」につながる生徒の学びの姿を検討する。</p> <p>○公民科科目において、新科目「公共」の在り方(育成すべき資質・能力、指導内容、生徒の学びの姿)を本校独自の視点から検討し、「社会に開かれた教育課程」の編成を推進する。</p> <p>○魅力と特色ある教育活動を推進するとともに、将来の主権者としてより良い社会を形成しようとする意欲や積極的に社会に参加・貢献する能力と態度を育成する。</p> <p>○金融に関する基礎的基本的な知識を身につけ、経済活動における金融の有用性について主体的に学ぶことで、社会の形成者として積極的に社会に参画する態度を身につける。</p> <p>○生徒の読書活動推進と図書貸し出し数の増加に向け、図書館からの情報発信や読書関連の企画を工夫し、利用しやすい図書館にする。</p>	<p>○生徒参加型授業を実践、定着させ、主体的・対話的で深い学びを目指し、すべての授業で言語活動を充実させる。</p> <p>○討論やディベートを授業の中に取り入れ、新科目「公共」につながる生徒の学びの姿を検討する。</p> <p>○生徒に身につけさせたい学力を職員全体で共有し、教授法や教材を工夫し、また、教職員のスキルアップ研修会を行う。</p> <p>○スタディーサポートを活用し、その結果を学年・教科等、職員全体で共有する。また、生徒・保護者向けの分析報告会を実施して、学業に取り組む姿勢の改善を図る。</p> <p>○外部機関と連携した金融教育の研究・実践を推進しながら、職員間で情報共有を図ることで、教科横断的に金融教育のあり方を模索する。</p> <p>○新刊図書の整備活動や図書館広報誌の発行回数の増加、図書のテーマ展示に取り組む。また、図書管理のデータ化を進める。</p>	<p>○「双方向授業」「参加型授業」など、アクティブラーニングの視点に立った授業実践の各教科における取組の実数。</p> <p>○生徒による授業評価の結果。</p> <p>○外部評価機関や他校への情報発信によって新科目「公共」に対する本校の取組内容を伝えることができたか。</p> <p>○スタディーサポートの結果の検討が授業実践に生かされたか。また、生徒の取り組みの改善状況を、家庭学習の時間量の推移で測る。</p> <p>○外部機関と連携した教育活動を通して、金融教育の学びの姿をとらえることができたか。</p> <p>○職員間の情報共有を通して、教科横断的に金融教育の研究を推進できたか。</p> <p>○新刊図書の整備活動や図書館広報誌の発行回数の増加、図書のテーマ展示が前年度より進められたか。</p> <p>○図書管理のデータ化が進められたか。</p> <p>○図書館利用者数を増加させることができたか。</p>					
2 生徒指導 ・支援	<p>○心身ともに健康で心穏やかに過ごせるように、不安や悩み、様々な課題を抱えた生徒が自ら課題解決できるよう支援する。</p>	<p>○部活動や学校行事の更なる活性化をすすめ、高い部活動加入率を維持する。</p> <p>○生徒が活動に主体的にかかわることで得る充実感や達成感を高め、たくましく</p>	<p>○部活動や学校行事への生徒の主体的取組を支援する。</p> <p>○部活動で事故が起きないように安全点検を実施する。</p> <p>○日常のあいさつの励行と</p>	<p>○学校行事に係る生徒や地域、保護者からのアンケートによる充実度。</p> <p>○部活動加入率の80%を維持し、活発に活動することができたか。</p>					

		○充実した高校生活を送るために、部活動や学校行事を活性化する。	生きる力を育成する。 ○道徳教育、交通安全教育、食育等によって健全な生活習慣を確立させるとともに、人権教育、防犯教育、防災教育等によって命を大切に、他者を思いやる心を育成する。 ○教育相談体制の充実に努め、カウンセリングを通して自尊感情を育む。	その質の向上を図る。 ○通学路でのマナー向上と自転車の安全教室等の開催を計画する。 ○「シチズンシップ教育」やすべての教科で「命の大切さ」に係る授業計画を取り入れる。 ○個別面談の充実やスクールカウンセラーと連携を図る。	○外部評価者、保護者、地域からの意見 ○生徒による授業評価や日常の取組への観察と部活動加入率。 ○部活動の安全点検の実施を確実に行ったか。 ○スクールカウンセラーの活用実績及びコア会議の開催数。					
3	進路指導・支援	○進路実現に向けた環境を整備し、生徒自らがキャリアプランに基づいた教育活動を実践する。 ○キャリア教育の充実により、学ぶ世界を拡げ、社会とつながる力を培い、質の高い進路実現を図る。	○キャリア教育を推進し、インターシップやボランティア活動・校外講座への参加者を増やすための方策を検討するとともに、体験の成果を発表する機会を充実させ、自分の将来について考えるきっかけを作る。 ○高大接続改革に向け、より充実した進路支援を目指し、情報収集と改善点の検討を行う。	○進路相談についての外部機関等の講師による研修を実施する。 ○家庭学習の充実と計画的な取組を促すツールの提供を行う。 ○生徒・保護者向け進路便りの発行を定期的に行う。 ○夏期・冬期講習、平日・土曜講習の実施を充実させる。 ○大学入試の英語外部検定試験利用に対応すべく、GTECの導入準備を行う。 ○出願指導等の充実を図るための3学年担任向けの研修を実施する。 ○生徒が積極的にインターシップやボランティア活動に参加できるよう支援し、文化祭などで体験を発表することで、他の生徒にも知る機会を作る。	○生徒の進路選択・進路実現が達成できたか。(9月調査時点の進路希望の最終決定率70%以上) ○研修が三者面談等に生かされたか。 ○効果的な学習に取り組む生徒が増えたか。 ○生徒・保護者向け進路便りの発行を定期的に行うことができたか。 ○長期休業中の講座、平日講習・土曜講習への参加数が増えたか。(講座受講者数、取組状況) ○GTECの希望者対象受験を実施し、導入に向けた検討ができたか。 ○多くの生徒の体験を発表することで生徒自らのキャリアについて考える機会を与えられたか。					
4	地域等との協働	○地域に開かれた学校としての取組をさらに進め、地域との協働により、学校・地域共によりよい環境を整える。	○地域貢献デーや近隣団体等との世代間交流によって生徒の自発的な活動を促し、公共心を養う。	○年2回春と秋の地域貢献デーによって生徒の自発的な活動を促し、公共心を養う。 ○世代間交流の充実を図り、「いちょうの集い」の規模や時期についての整備を行う。 ○部活動、ボランティアの推進を積極的に行う。	○地域貢献デーの活動によって、生徒の「気付き」を引き出し、地域社会との協働が進めることができたか。 ○部活動やボランティア活動が年間を通して充実して行われ、地域社会の一員としての自覚を生徒に強く持たせることができたか。					
5	学校管理 学校運営	○保護者や周辺地域による、本校の教育活動に対する理解を深化させる。 ○保護者の教育ニーズを的確に把握し、協働と信頼に根ざした学校づくりを推進する。	○成績処理支援システムの円滑な運用を図り、事故のない成績処理及び生徒指導要録・調査書作成を行う。 ○職員で事故防止に取り組み、信頼される学校づくりを推進する。	○ホームページの内容を適切に更新し、保護者や地域・県民にとってわかりやすい丁寧な内容に充実させ、開かれた学校として発信する。 ○成績処理及び調査書作成時期を前に事故防止のための研修会を開催する。 ○事故防止に係る点検シートの見直しを随時行う。	○ホームページ内に生徒や保護者に向けたページ等を加え、一層の充実を図り、アクセス数の7万件以上を達成できたか。 ○事故不祥事のない信頼される学校づくりができたか。					